

尾瀬山開き 警戒しつつ

群馬、福島、新潟、栃木の4県にまたがる尾瀬国立公園の山開きが21日、尾瀬の玄関口にあたる片品村戸倉で開かれた。23日には鳩待峠口に通じる県道の通行止めが解除され、群馬県側からの入山が可能になる。今季は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、登山口への乗り合いタクシーに仕切りを設けたり、山小屋の営業開始を7月に遅らせたなどの異例の形で夏山シーズンを迎えることになった。

あす入山可能に

山開きは群馬、福島、新潟3県の持ち回りで、40回目の今回はハイカーの約6割が入山する鳩待峠口に通じる戸倉地区で開かれた。交流施設「尾瀬ぶらり館」であった式は規模を縮小し、地元関係者ら14人が山の安全を祈った。参列者からは「自然を満喫して欲しいが複雑な気持ちだ」という声も聞かれた。

例年は開山前の大型連休などに訪れるハイカーも少なくない。今季は緊急事態宣言の外出自粛要請を受けて、尾瀬保護財団や環境省が入山自粛を要請。通行止めを延長したり、駐車場を閉鎖したりしていた。

関係者の話し合いでは開山に慎重な意見も少なくなかったが、乗り合いタクシーやバスは乗車人数を減らし、週末は村や県の職員らがハイカーに注意喚起の声を

新型コロナウイルス

タクシーに仕切り ■ 注意喚起声かけ



新型コロナウイルスの影響で規模を縮小して開かれた尾瀬山開き。神事で安全を祈った片品村戸倉

掛けをするなどして感染防止対策を取ることにした。大清水口と戸倉の駐車場も営業を開始し、主な公衆トイレも使えるようになる。ただ、山小屋や売店の営業開始は例年の4月下旬から7月に遅らせる。福島県側の登山口になる檜枝岐村では、御池駐車場の開業と沼山峠に向かうバスの運行開始は7月以降の予定。村

性の調査開始以来最低だった。今年はいさらに減る可能性がある。(張春樹)



尾瀬道の沼田インターチェンジから、尾瀬の玄関口である片品村戸倉に向かう道路沿いには「尾瀬自粛お願いします」という看板が設置されていた。沼田市

内の宿泊施設の6月末までの営業自粛も決めている。片品村の極志志洋村長は山開き後、「しばらくは自粛してほしいのが本音。その都度判断しながら関係者が一緒になって難局を乗り切りたい」と話した。関係者によると、今年

山小屋も感染対策 営業7月に

尾瀬の山小屋や休憩所の営業は7月1日以降に始まることになった。全5施設による尾瀬山小屋組合が決めた。20カ所の山小屋のうち17施設が消毒や換気など新型コロナウイルス対策の準備を進めていくという。ただ、2施設は感染リスクを理由に今季は休業する。

例年、主要な登山口の鳩待峠口への冬季通行止めが解除される4月下旬から大型連休後にかけて順次営業を始める。しかし今季は緊急事態宣言などを受けて開業が延期になっていた。

個室化が進む尾瀬の山小屋では、各施設が日本旅館協会などが設けた宿泊施設の対応ガイドラインに準じて、感染リスクを高める「3密」(密閉・密集・密接)を避ける環境整備や、客と従業員間の安全策を講じる。環境面から使用を自粛していた手洗いのせつけんも置く。清水秀一組合長は「山小屋同士で情報共有して、尾瀬から感染者を出さないという強い気持ちで対策を取る」と話した。

一方、感染の懸念があるとして尾瀬小屋(見晴地区)は今季休業を決め、尾瀬ロッジ(山ノ鼻地区)は休業の方針。尾瀬小屋は症状が重い場合に対応できる医療機関がなく、除菌や消毒用品の確保も難しいことを休業の理由に挙げた。尾瀬ロッジの萩原久美枝さんは「スタッフの安全確保も含め、対策をきちんと取らないと開けられない」と話す。(張春樹)